

白血病に対する WT1 標的分子標的治療法の開発

尾路 祐介（大阪大学大学院医学系研究科・機能診断科学）

WT1 遺伝子は小児腎腫瘍ウィルムス腫瘍の原因遺伝子として単離された遺伝子で癌抑制遺伝子と考えられてきたが、我々は WT1 がほとんどすべての白血病や様々な固形癌で過剰発現され、癌遺伝子として機能していることを明らかにしてきた。さらに、WT1 タンパクが代謝経路酵素と直接結合して、白血病細胞の生存に関与していることを明らかにした。現在この相互作用を標的とした白血病に対する分子標的治療法の開発を進めている。